

事例の概要について

1 概要

- ・日本赤十字社における遡及調査により、H I Vで陽転した供血者の前回供血時の保管検体（50プールNATは陰性）について本年12月17日に個別NATを実施したところ陽性が判明した。
- ・当該血液の前回供血日は本年5月19日、陽転した供血日は11月16日であった。
- ・当該血液を原料とする血液製剤として、新鮮凍結血漿、赤血球製剤、原料血漿が製造されていた。
- ・新鮮凍結血漿が1名の患者に輸血されていたが、赤血球製剤は廃棄、原料血漿は回収済。
- ・当該患者の血液検査の結果、PA法及びEIA法で抗体陽性、NAT法でHIV-RNA陽性判明（輸血前の検査ではH I V陰性であった）。引き続き、H I Vの遺伝子型等を検査中。

2 今後の対応

- ・未使用血液製剤は廃棄・回収され、血液製剤による感染拡大の可能性なし。
- ・日本赤十字社における検査結果が判明後、安全技術調査会に報告。
- ・供血者の情報も含め引き続き情報を収集。
- ・NATの精度向上等について日本赤十字社に対応を求める。
- ・安全技術調査会の早期開催。

